



Vol.08
2022.07

がん相談支援センターだより

がん治療とお口のはなし



普段、おいしく食事をしたり、会話したり、歌ったりするうえで、お口は大切な器官です。

がん患者さんにおいては手術や治療の副作用により、口の中に痛みや炎症を発症し、食事や会話に支障をきたす場合があります。お口の状態は、がん治療のその後に大きく影響し、口腔トラブルがQOL（生活の質）を低下させるだけでなく、治療を中断せざるを得なくなる、ときには生命の危機に関わることがあります。そのため、がん治療前からしっかりと口腔ケアを行い、口腔内を清潔に保つことが必要なのです。

1.がん治療を支える口腔ケア

近年、がん治療において、がん患者さんの疼痛・症状の緩和治療や、副作用対策と並び、がん治療時の口腔ケアも重要視されるようになりました。当院でも、がんの3大療法（手術、放射線治療、化学療法）に対して歯科医師と歯科衛生士が口腔管理や

指導を行い、がん患者さんの治療を支えています。

初回の治療や手術が始まる前には、誤嚥性肺炎の予防や口腔トラブルの発生の軽減を図るとともに、トラブル発生時には対応しております。

がん治療前にできること

- 口腔状態をチェックします。
- 歯や義歯の歯石を除去し細菌の質と量を改善します。歯面を研磨し、細菌をつきにくくします。
- 患者さん自身でできるセルフケアの指導を行います。

がん治療が始まったら・・・

- 治療中もブラッシングや義歯の清掃で口腔内を清潔に保ち、乾燥を防ぐための保湿（ブクブクうがい等）を行います。
- 疼痛症状にはコントロールするための処置を歯科医師や薬剤師が行います。

放射線治療、化学療法でおこる 口腔トラブル

放射線治療では口腔を含む頭頸部がんに放射線を照射すると、口腔トラブルが発症することがあります。また、抗がん薬の投与は全身に影響を及ぼすため、その1症状として口腔内にも症状が現れることがあります。

- ◆ 口内炎
- ◆ 口腔粘膜炎
- ◆ 口腔内の乾燥
- ◆ 味覚異常(味が変わったように感じる)

がんの手術により予測される 口腔トラブルやその他のリスク

がんの手術は挿管時の歯のトラブルや術後肺炎、抵抗力低下による手術部位感染(SSI)を生じることがあります。口腔機能管理により、これらを抑制することが期待されます。

※SSI(Surgical site infection)

- ◆ 人工呼吸器挿管時に、口腔内の細菌が押し込まれて肺炎を発症
- ◆ 人工呼吸器挿管時の歯の破損や脱落
- ◆ 口腔内の菌が原因による虫歯や歯周病

術後は抵抗力も落ちているため、口腔トラブルのリスクも高まります。

術前に口腔ケアを始めることでトラブルを未然に防ぎ、入院期間の短縮にもつながります。

退院後も、かかりつけ歯科で定期的なメンテナンスを受け、お口の環境を整えておくことが大切です。

2.歯科口腔外科 診療体制



★前列右 蔵本 医長 / 前列左 井上 医員

初診時間帯 月～土、9:00～12:00

情報共有が必要な方には退院時に「診療情報提供書」を作成し、かかりつけ歯科との連携を図っています。

当科は埋伏歯などの抜歯、顎面骨の骨折、顎関節症、唾液腺疾患、口腔乾燥症、顎変形症の相談などの口腔外科疾患の診療を行っています。

該当かどうか迷われる場合は、一度ご相談ください。



医長 蔵本 達人 (くらもと たつと)

神奈川歯科大学卒 (平成 27 年)

- ・日本口腔外科学会口腔外科認定医
- ・日本化学療法学会抗菌化学療法認定歯科医師

医員 井上 周 (いのうえ しゅう)

北海道医療大学卒 (平成 31 年)

- ・日本口腔外科学会所属

詳しくはホームページを
ご覧ください。



大切にします
こことからだ やすらぎを

社会医療法人 岡本病院(財団)

京都岡本記念病院 がん相談支援センター

〒613-0034 京都府久世郡久御山町佐山西ノ口100番地

TEL 0774-48-5500(代表) FAX 0774-46-7835

[受付時間] 月曜日～土曜日 午前9時～午後5時

★医療関係者・開業医の皆さまは地域医療連携室へお問い合わせください。TEL 0774-46-5981 / FAX 0774-46-7835